

第3回

武蔵野市立保育園のあり方検討有識者会議

議事要旨

日時：令和2年8月24日（月曜日）

午後6時～午後7時

出席者：＜委員＞榎田委員、新保委員、西巻委員、富樫委員、鵜川委員、
勝又子ども家庭部長

＜市・事務局＞吉田子ども育成課長、臼井保育施設調整担当課長、事務局6名

委員発言■、事務局発言○、決定事項は◎ゴシック下線

開 会

1 事前送付資料について

【事務局より、資料1 中間報告書案について、前回からの変更点を説明】

2 中間報告書案について

■ 中間報告書は、市議会の文教委員会に出されて、パブリックコメントにつながるということですね。

○ 事務局 そのとおりです。

■ まず、1「はじめに」から3「保育をめぐる現状と課題」までの部分について、何か御意見等がある委員の方はお願いします。

■ 2「これまでの経過」の部分で、2ページの一番上のところに「第六期長期計画、第五子どもプランの取り組みで位置づけられた」という記載があります。令和元年度の武蔵野市立保育園のあり方検討庁内委員会は、第四次子どもプランに位置づけられている検討をもとに始まったもので、今回の六長と五次プランの前に四次プランで庁内のあり方を検討するものが根拠になっているので、その部分を追記していただきたいと思います。

■ 5ページの上にある表なのですが、無償化後の自治体の負担割合に金額が入っているのですが、これは市の金額ですか。

○ 国の資料からの抜粋で、金額は国の金額をベースにしています。

■ できれば武蔵野市の金額で表示することは可能なのでしょうか。

○ この表の目的は、国と東京都と市の負担割合を示すことですが、確かに委員の御指摘のとおり、市の金額を示したほうが分かりやすいかもしれませんので検討します。

■ 4ページの「市の保育士の年代構成」で、先日の資料だと、子ども協会から研修として派遣を受け入れていますが、実際に仕事をしているのであれば、そのことも書いたほうがいいのかどうか、市と子ども協会が一体に見られてしまうので、書く必要があるのかどうか、御検討いただければと思います。

■ 実際に現場を巡回すると若い先生たちにも出会うので、この表と現場の印象は少し違

うような気もします。

○ こちらの表は公務員保育士にターゲットを絞っています。現場に行くと子ども協会の若い保育士もいますが、公務員保育士だけを見ると若手が少ないので、この報告書の公務員保育士の採用が必要であるという部分の根拠を示す表になっています。

■ この表は、市の公務員保育士は20代がないという現実をここに書いておく必要があるのですが、出てきているものですが、交流しているというところまで書き込んでおくかどうか。子ども協会の話は6ページに少し書かれています。資料として子ども協会の職員が市立保育園に入っているというところまで載せますか。

■ ここに子ども協会の表が出てくると、全体が見えると思います。子ども協会から公立に応援に来るのか、それとも子ども協会の応援をやめて市が採用するのか、難しい問題ですが、29歳以下が0人というのは大きい課題だと思います。

■ 大きな課題としてインパクトを強く出すのであれば、このままの表だけのほうが良いということですか。

■ そういことです。

■ 読んだときに問題点を分かりやすくするという点では、このほうが分かりやすいと思います。

■ 実際は20代が子ども協会立の職員であることと、質を担保するために市から協会に派遣しているということをごまかす文言として入れましょうか。

■ 入れると、子ども協会のことをまた議論することになるので、公立の問題だけで整理したほうが良いと思いますが、どうでしょうか。

■ そう思います。

■ この(2)「保育の質の確保」のところは、公務員保育士だけの表にしておいて、子ども協会が出てきたところで、必要であればもう一回お話しをするということにしたいと思います。

本題の4「市立保育園の必要性と今後の役割について」です。その中で(1)の「市立保育園の必要性」について、重要なところですので一つずついきたいと思います。

■ 5ページの下から2段落目の保育アドバイザーについて、これは市立保育園の必要性というよりも、市の役割として保育アドバイザーという業務があるという意味なので、民間の保育園の経験者でもいいわけですね。どうして民間の保育園からこういう人を使わないのかなという疑問が起きるので、市の人材活用の一つという位置づけのほうが良いの

かなと思います。

■ 市立保育園の園長先生を経験された方などがアドバイザーになっていらっしゃるかと思いますが、その辺はどうでしょうか。

■ 今まで市立保育園がやってきたメリットの1つは、長い経験を積む保育士が市立保育園は多いということがあります。スキルであったり、経験が長い園長クラスがたくさん育っていたりというのが、一つの特徴であって、やはり市立保育園によって、保育アドバイザーの役割ができる人材を育ててきたことに間違いありませんので、この記載を残すことは非常に大きな意味があると感じています。

■ 多様な保護者の要求に応えるには、公立の存在はすごく大きいですね。一般財源が多くかかっている公立を置くのはなぜなのかを何か入れたいです。

■ 5ページの最後の段落にもう少し加えたいという感じですか。

■ ごくごく普通の親たちも子どもを育てるのに悩むことですよね。あと、虐待の問題でいけば、保育園現場での役割が大きい。この辺に市立保育園の役割が非常にあると思っています。

■ 文言として入れられるか検討します。保育アドバイザーのところはどうでしょうか。

■ 内容的にはこれでいいですが、「市立保育園が市に配置して」と書いてあるので、主語がどちらなのかということですよ。

■ 配置しているのは市ですね。ここの文章は検討します。

■ 市立保育園が市に派遣しているみたいに読めてしまうところもあるので、市が主体になってということが分かるようにしていただいたほうがいいのかという意見です。

■ 子ども協会については、またどこかでまとめて項目を作るのでしょうか。

■ いえ、ここだけです。

■ そうすると、自立ということをもう少し具体的に書いたらどうでしょうか。例えば職員の交流とか、理事長が市のOBであったりとか。悪く見ると、国の補助金をもらうために、形式的に民間にしているんじゃないかと批判を受ける可能性もあります。中長期的にはちゃんと自立した保育園になる、市立保育園の補助もしていくという道筋みたいなことも、できれば書いていただくといいかなと思います。

■ 庁内委員会の報告書のほうでは、「子ども協会立保育園に期待する役割」というので一項目別立てにされていますが、今回は「市立保育園の必要性と今後の役割」で、この中の一部に含まれた形の記述になっています。その辺をもう少し書いたほうがいいのかどう

か。

■ ここは違いがわかりづらくなっているのですが、例えば3年後とか5年後とか、子ども協会が自立していくという文章が入ったほうが分かりやすいかなという感じは、今お話を聞きながら思いました。

■ 子ども協会はいろいろなことを考えて自立を目指すと思うので、ここにどこまで書けるかは難しいんです。ただ、自立していくために、こういうことを考えたほうがいいんじゃないかというぐらいは書けるのか、項目はこのままここに入れ込んでいいのか。別立てにすると浮いてしまうとも思いますが、いかがでしょうか。市がどこまで書けるか、御意見あればお願いします。

■ 子ども協会の書きぶりが、市の庁内検討では一項目ありますが、今回は、なお書きになっています。皆さんの御指摘があった部分は、概ね書かれていると思いますが、市立保育園のあり方の検討の反対側の側面として、子ども協会立園がどうなるべきかということも、前回、前々回で各委員から御議論がありました。

ただ、この場で子ども協会立園がどうなるかということに言及するのはなかなか難しいということと、この文でも自立を目指して運営について議論されることを期待したいという、次につなげるような文言になっています。本年度にかけて中期計画を子ども協会で作成し、その中で、今後のあり方について子ども協会独自の考えも含めて記載すると聞いていますので、今の段階で言及するのは難しいのかなと思っています。

■ 報告書という形で細かいところまで書いていくのは難しいので、中間報告書で子ども協会を考えていただくという形しかないと思っております。

■ もしその方向であれば、異論ありません。文章に書かなくても、少なくともどれぐらいいまでは園長・副園長、特に副園長は、子ども協会の職員の副園長としての位置づけるのかについて、確認事項として市のほうで押さえてください。

■ 市としての保育の理念を実現する上で、市が直接運営する市立保育園というのは非常に必要性があるということで意見をしてきました。やはり民間は、必要性は認めてもできないことがたくさんあって、それを市としての保育の実施責任のもとに実現していくところ、市立保育園の必要性のベースとしてあるので、何かその表記をと思いましたが、財政的な影響が冒頭に書かれていますが、財政的に課題があっても、住民生活に欠かせない部分に関しては施策としてきちっと実施していくことが必要です。財政面に関して言えば、もともとは市立保育園も国や都や市の財政負担割合は民間保育園と同じだったと

ころが、一般財源化されたことで、市が全て持たなければならなくなり、ここは国の政策について議論する場ではないですし、そのことについてここに表記していただきたいということではないですけれども、毎回財政的な問題が出ると、結局はやはり国による位置づけの問題なんだろうと民間の立場として思ってしまう。そういう中でも武蔵野市が市立保育園の必要性を認めて、ここで明らかにしていくということの意味は、やはり武蔵野市に保育の実施責任があつて、保育の理念を実現するということがベースにあると思うので、何かしらの形で表記をしていけたらと思っています。

■ あくまでも武蔵野市は一般財源化しても、保育園に、子育てに力を入れているという一文が入ればよいと思います。

■ 財源のことがまず最初に記載があるけども、そうではない書き方は検討したほうがいいですか。

○ 検討させていただきます。

■ (2)の市立保育園の今後の役割について意見を伺いたいと思います。

■ 今後の役割としての6ページの下の方で、子ども協会立保育園が外の輪っかになっていて同列になっているのが、ちょっと違うのかな、補完するような立ち位置に子ども協会園があるべきかなと思いました。

○ このイメージ図につきましては、初めて作った図ですので、オーソライズされているものではないです。確かに子ども協会立保育園をどこに書くかというのは非常に悩ましいところで、補完的な役割が見えるような形の記載について、再度検討したいと思います。前回まで「災害時における保育所型福祉避難所の機能の確保」の部分について、特段御意見をいただいているので、御意見をいただければと思っています。

■ 市の地域防災計画の中に1点位置づけられているところがあります。当然民間の保育園の方々にも、発災直後は保育園児がいて、保護者の方が迎えにくる間は、それまでしっかり保育をしていただくということをお願いしていますが、その次の段階としては、まずは市立保育園が率先して福祉避難所を開設し、この役割を担うというのは非常に重要なことだと思っています。

■ 災害があったときはそれでいいと思いますが、将来的には全部の保育施設が拠点になっていくと考えますか。

■ 全部がというのは難しいかなとは思っています。まず市立保育園、その次にそれを補完する子ども協会、あとは力のある民間。全部の認可保育園がこれを担うのはなかなか難

しいかなと思います。

■ 保育園の近くが火事になったことがあり、そのとき近くの市立保育園に子どもたちを全部移しました。一般的な災害でなくても、日常的に起きるようないろいろなことも想定できるので、そういうこともきちんと計画の中に立てなければいけないと思います。

■ 福祉避難所については、例えばうちの園でやろうと思うと、いろいろな課題がありますが、市立保育園ではそういう場合を想定した体系は、現状でできているんですか。

○ BCP訓練という、緊急事態が発生したときの想定をもとに、防災セクションと連携した訓練を実施しています。

■ 次に5「市立保育園の配置のあり方と保育士の確保」です。20代がないということ、4園を維持するという、それから医療ケアのモデル園を配置していきたいということ、人材を確保していくということが書かれております。

■ 人材確保については、もう少し具体的な戦略というか、考え方を書くことはできないでしょうか。新卒だけだと長くかかりますよね。子ども協会から派遣されている人を職員にするとか、もう少し具体的に書いていただければと思います。

○ 幅広い年齢構成の採用をしていくのが現実的だろうと考えています。ここにどのように記載できるかは、もう少し検討させていただければと思います。

■ 医療的ケア児の受け入れの件で、現状はやはりこういう書き方になるのでしょうか。前回もいろいろと意見交換をして、積極的に進めていく方向を少し出していく感じのかなという印象でした。「ロードマップの策定など具体的な検討を行う」と書いてありますが、積極的なニュアンスがあればと思いました。

■ 4ページの市の保育士の年代構成についてですが、これだと配置基準を満たしていないことになります。3分の1ぐらいが子ども協会からの出向です。これで運営しているのかと聞かれたら、実際にはやっていないわけです。子ども協会と市との連携、人事交流という形で補っている、補完しているということをどこかに入れていただいたほうがいいんじゃないかなと思います。

■ 新卒だけでなく上の代も採用という話がありましたけれども、そこにつながるような感じのイメージですね。人事交流をしている文言と子ども協会とのことを入れたらという御意見です。

■ この年代構想の偏りを、人事交流で補っていますということを入れていただいたほうが、実態が分かるんじゃないかなと思います。

■ 武蔵野市は公立も子ども協会も国基準を超えた武蔵野市の職員配置基準があるので、
そこも強調してほしいと思います。

閉　　会